

永代河岸通り

永代一〜二丁目

隅田川東岸の永代橋から臨海公園まで、大横川に沿って約六百メートルほど続く通りが永代河岸通りです。

かつて、永代一・二丁目は深川獵師町の一つで、昭和の中頃まで漁業や海苔の養殖などで栄えていたところです。この通りに面する永代公園内に「深川獵師町跡」の由来が記してあります。

この公園からは隅田川テラスに出られます。爽やかな五月晴れのテラスからは永代橋、中央大橋、相生橋そして大横川へ注ぐ、大島川水門が目の当たりに広がり、隅田川河口の町ならではの雄大な眺めです。

「永代河岸通りは昔、滯通りとも言われていたようですね。震災



まで朝、東京湾でとれた魚介類を売る露店が、今の永代消防署（深川消防署永代出張所）辺りにあって、永代の夕河岸」として有名だったそうですよ」と、永代二丁目南町会長の橋場さん。海岸線と平行して沖のところを船が通りやすいように深く掘り下げたのを「滯通し」と言い、この辺りを「滯滯」と呼んでいたようです。

永代河岸の面影を感じさせてくれるのが、大島川西支川に架かる異橋辺りです。橋際には大正7年の創業という佃煮屋さんがあります。昭和40年頃までは東京湾でとれたアサリやアミを棧橋から直接

運び入れていたそうです。

川には今でも屋形舟や小舟が浮かび、低い家並みが兩岸に並んでいます。家々の軒先から橋の歩道まで、手入れの行き届いた鉢植えが並び、道行く人たちの心を和ませてくれています。

ちょうどこの異橋が大横川（大島川）と大島川支川の合流点で、対岸の大横川沿いには古い倉庫が並んでいます。倉庫群に渡る橋が練兵衛橋です。江戸時代、越中島訓練場への橋として架けられました。大島川と呼ばれていた川も今は、大横川と改名され、兩岸は桜並木の散歩道になっています。